

ワクチン新聞

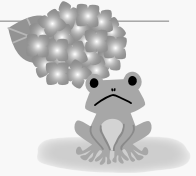
令和3年 初夏号

発行：田辺三菱製薬株式会社 大阪市中央区道修町3-2-10

TOPICS

- 風しんのキャッチアップとは？
- ウイルス性疾患にかかったあとの
予防接種時期

監修：川崎医科大学小児科学教授 中野 貴司 先生



風しんのキャッチアップとは？

「キャッチアップ」とは、「追いつく、遅れを取り戻す」という意味で、予防接種においては、「年齢ごとに定められた、または推奨される予防接種スケジュールを完了できていない人が、後追いで予防接種を受けて必要な免疫を得ること」をいいます。

その代表的なものに風しんのキャッチアップがあり、1962年4月2日から1979年4月1日生まれの男性を対象に、2022年3月末まで、風しんの抗体検査と抗体価が基準以下であればワクチン接種を自己負担なく受けることができます(第5期定期予防接種(図))*¹。これは、この世代の男性が風しんワクチンを公的に受ける機会がこれまでなく、成人男性を中心に流行した風しんに妊婦さんが感染することで、先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる要因となったことがきっかけとなっています。国内において、2019年から2021年1月29日現在までに6人の赤ちゃんが先天性風しん症候群と診断されました*²。

風しんはワクチンで予防できる疾患です。1人でも多くの人が風しんのキャッチアップを行い、社会全体で風しんを防ぐことが重要です。

*1 厚生労働省ホームページ:風しんの追加的対策について
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html
*2 国立感染症研究所：先天性風しん症候群(CRS)の報告(2021年1月29日現在)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/700-idsc/8588-rubella-crs.html>

風しんのキャッチアップ(第5期定期予防接種)

- 対象者 1962年4月2日～1979年4月1日に生まれた男性
- 実施方法 風しんの抗体検査を実施 **自己負担なし**
↓
風しんの抗体検査で免疫が十分ではないと判明した場合、
ワクチンを接種 **自己負担なし**
- 実施期間 2019年～2022年3月31日まで

厚生労働省ホームページ：風しんの追加的対策について より作成
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

ウイルス性疾患にかかったあとの 予防接種時期

予防接種は、元気で体調のよい時に受けることが原則です。しかし、もしウイルス性疾患にかかってしまったら、どのくらいの期間をあけてから予防接種を行うのがよいのでしょうか。

予防接種法では、はっきりとした基準は設定されていませんが、ウイルスが体内で増殖している時に生ワクチンを接種しても効果が期待できない場合があります。罹患によって免疫機能が低下すると考えられている麻疹では治療後4週間程度、風しん、おたふくかぜ、みずぼうそう(水痘)などの場合には治療後2～4週間程度の間隔をあければ不活化ワクチン、生ワクチンとも接種できるとされています*³。一般的なかぜ症候群や胃腸炎、突発性発疹、手足口病など軽症のウイルス性疾患でも、治療後1～2週間の間隔をあけるようにしましょう*³。

心配な症状や、わからないことがあったら、かかりつけ医に相談して予防接種の接種時期を決めることが大切です。

*3 一般社団法人日本ワクチン産業協会. 予防接種に関するQ&A集. 2020, 東京, 教育広報社, p.16



心配な症状や、
わからないことがあったら、
かかりつけ医に相談しましょう。

ワクチン質問箱

質問 同時接種と混合ワクチンの違いは？

回答 同時接種は、同じ日に同じ医療機関で、複数のワクチンをそれぞれ接種することです。一方、混合ワクチンは、複数の病気に対するワクチンが初めからひとつの注射液に混合して含まれています。混合ワクチンと単独ワクチンは同時接種が可能で、例えば、生後3か月であれば、B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、4種混合ワクチン(ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ)の注射4本と、ロタウイルスの飲むワクチンを同時接種で受けることができます。

感染症Q&A

Q 先天性風しん症候群

A 先天性風しん症候群は、風しんに対する免疫がないか、あっても不十分な妊娠20週頃までの女性が、風しんウイルスに感染することにより、生まれてくる赤ちゃんに難聴や白内障、先天性心疾患などを起こす病気です。妊娠を希望する女性だけでなく、夫を含む周囲の人が予防接種を受けて免疫をつけておくことが、赤ちゃんを守ることに繋がります。

ミニ コラム

蚊のシーズン到来～虫よけ対策～

蚊の飛び交う季節がやってきました。日本で蚊が媒介する重大な感染症は日本脳炎です。日本脳炎予防対策の中心は、日本脳炎ワクチンの接種と、ウイルスをもつ蚊に刺されないことです。日本脳炎を媒介するコガタアカイエカが活発に行動する夕暮れ時以降には、できるだけ肌を露出せず、虫よけスプレー、蚊取り線香などの忌避剤を使用することが大切です。



風しんの 予防接種を 受けましょう!!



生まれてくる
赤ちゃんを

みんなで
守ろう

妊婦が風しんにかかると、目・耳・心臓などに障がいを持つ赤ちゃんが生まれる可能性があります。予防はワクチンが最も効果的ですが妊娠中は接種できません。このため、妊婦の周囲にいる夫や同居の家族が風しんに対する免疫を獲得することが大切です。

2021年度、42歳以上
59歳以下の年齢にあたる方

42歳

59歳

定期予防接種
対象年齢(成人男性)



1979年(昭和54年)
4月1日生まれ

1962年(昭和37年)
4月2日生まれ

風しんの抗体価が低い成人男性^{*}は定期接種対象となります。

^{*}1962年(昭和37年)4月2日生まれ~1979年(昭和54年)4月1日生まれ

自治体により対応が異なる場合がありますので、詳細はお住まいの市区町村にお問い合わせください。